

## 事業に対する評価・提言等

### Q4. スリランカ（コロンボ）における訪問国活動についてコメントを書いてください。

- スリランカは本当にすばらしかった。全てが整っていた。人々が大変親切で、全ての活動は忘れがたいものであった。コロンボでの寄港地活動は「世界青年の船」事業のプログラムの中で一番すばらしいものだったと感じている。スリランカをもう一度訪問し全てを見たいと思う。SWYAA とユースセンターもすばらしかった。（スペイン）
- 首相に昼食会を主催していただけたのは、とても光栄だった。ありがとうございます。（南アフリカ）
- もしセミナーの前にアイスブレイクが実施されていれば、より深くコースのトピックについて学べたと思う。（南アフリカ）
- スリランカはとても美しいと思った。近々ぜひまた訪れたい。青年と政府による準備はとても良く行き届いており、人々からの温かい歓迎を感じた。（ペルー）
- スリランカの文化と問題への知見を深めるために、現地の青年とディスカッションする時間がもう少しあると良かった。（ペルー）
- とてもすばらしかった。国も好きになったが、人々もホスピタリティに溢れ、いつも笑顔だった。（オマーン）
- SWYAA の努力と運営が本当にすばらしいと感じた。（メキシコ）
- 地域の実態を知るという意味では、ホームステイ又はホームビジットがあった方がより有意義であると思う。スリランカナイトは非常にすばらしかったので、船へ戻る時間を少し遅らせるなどしても良かったかもしれない。（日本）



## 管理官評価

内閣府国際調査官

駒形健一

2018年1月28日に「にっぽん丸」に乗船し、翌日、横浜港を参加青年の家族や多くの関係者に温かく見送られ出航した平成29年度「世界青年の船」事業は、インド、スリランカへの訪問国活動と33日間の船上活動を滞りなく終了させ、3月2日に無事、東京・晴海港に帰ってきました。出航当初は、国内活動時に発生したインフルエンザの影響を受け、幾つかのプログラムが延期、変更となりましたが、NLや参加青年の自主的なリーダーシップと献身的な協力により、シンガポールに寄港する前にインフルエンザも終息し通常通りの船上活動に戻ることができました。インド、スリランカの訪問国活動は、ほぼ予定通り進行し、表敬訪問、大学での討論、課題別視察など重要なプログラムを全て順調にこなすことができました。船内のディスカッションテーマについて地元の学生と討論をする機会がコチ科学技術大学とコロombo大学であり、両大学の全面的な協力のもと、参加青年は有意義な議論ができたと思います。多様なコースが用意された課題別視察でも両国で貴重な経験と気付きを得ることができました。また、スリランカでは、NLらと共に、大統領への表敬（大統領公邸）と、首相への表敬（首相府ホールでの昼食時）を果たすことができ、全体として訪問国活動は大きな成功を収めたと評価できると思います。船上では、セミナー、コース・ディスカッション、ナショナル・プレゼンテーション、クラブ活動などの公式プログラムを幾つかの変更を伴いながらも全て実施し、特に各国が力を入れていたNPがインフルエンザの影響で伸び伸びになっていたところ、最初のシンガポール寄港後にやっと実施にこぎつけることができ、参加青年らの喜びと達成感は、とても大きなものだったと思います。PYセミナーやスキルセミナーという参加青年の自主性を開花させるプログラムは順調に進行しましたが、それに加えて、終盤に入り、数えきれないほどの自主活動が船内至るところで開催されました。参加青年の自主性とリーダーシップが次々と開花していくのを見ながら、もう数日航海が長ければ、もっと活動の内容が深まったのと思うほど活発に行われました。終盤に開催されたサマリー・フォーラムでは、各コース・ディスカッションの発表後、参加青年がファシリテーターと抱き合っている姿が、苦楽を共にしてきた達成感を如実

に表していたと思います。

日本に帰ってくる途中、大きな揺れに襲われ、多くの参加青年が船酔いに苦しみましたが、参加青年たちは、インフルエンザや船酔いなど様々な困難を克服して、その使命を皆で達成することができました。このことは、NLのリーダーシップのたまものであるとともに、参加青年全員の勝利であり、大いに称賛してあげたいと思います。

参加青年は、このプログラムで経験したことを、一生の思い出、大切な宝として、本国や郷里に持ち帰り、船での日々を懐かしく思うことでしょう。事業終了後、参加青年は離れ離れになりましたが、この33日間の航海を一緒に過ごしたことで、それぞれの心は海を越えて固く結ばれ続けていくと思います。ですから、これからは、参加青年それぞれの新しい人生に向かって、それぞれの事後活動の実現に向かって進んでいくことを期待します。「世界青年の船」事業の仲間がそれぞれの夢の実現を手助けしてくれることは間違いありません。参加青年はもう一人ではありません。11か国243人もの若者が、船上でかけがえのない1か月を共にしたのです。今や一つの家族です。

フェアウエルでの参加青年たちの姿は皆輝いていました。「Together we SHINE」というスローガンそのものだったと思います。参加青年たちには、これからは自分たちが輝くだけでなく、それぞれの地域や社会で、より多くの人を、より多くの家族を、より多くの子供たちを輝かせていただきたいと思います。今年度事業は終了しましたが、より良い世界を作るために、参加青年一人一人の使命はこれからも続きます。参加青年たちならできると信じています。

そんな参加青年たちと一緒に、一生に一度というすばらしい航海をすることができた私は、とても幸せな管理官だったと思います。心から感謝します。参加青年たちの成長した姿にどこかで出会えることを楽しみにしています。

Together we SHINE all over the world!

See you again! I love you all !!

## 各国ナショナル・リーダー評価

### オーストラリア連邦

アンドリュー・ヒッグス

エンターションとして外国参加青年にとって役に立つ内容を提供していただきました。

- **表敬訪問**：日本で皇太子御接見と首相表敬訪問に参加できたことは、各国代表団のリーダーにとって非常に光栄であり、「世界青年の船」事業の重要性と意義が象徴された機会でもありました。

### 船内

- **コース・ディスカッションとセミナー**：グループ毎のコース・ディスカッションは、事業の研修を支える中心的なプログラムでした。セッションは、陸上、船内、訪問国を通して実施されました。生活習慣病コースのハイライトは、ゲストスピーカー2名からそれぞれ話を伺ったことです。齋藤珠恵氏による自身の癌闘病についてと、看護師の畑井智行氏による国境なき医師団を通じた戦禍による荒廃地での活動体験についての話でした。また、各国の参加青年から、あるいは訪問した大学の学生たちも交えてお互いに体験共有をした時には、一番充実したディスカッションができました。コース・ディスカッションは全参加青年が七つのコースに分かれていましたが、オーストラリア参加青年は、いずれのコースでもディスカッションの主導、プレゼンテーションの発表、セッションのファシリテートなどを行い、リーダーとしての役割を果たしました。主にコース内容やファシリテーターに対する評価の違いで、コース・ディスカッションの評価はばらつきが大きい結果となりました。

- **セミナー**：PYセミナーとスキルセミナーは非常に高レベルなものが揃い、新しい見識を提案し、協調の機会を設け、参加青年同士の相互理解を強化するプログラムになりました。オーストラリア参加青年は、健康に関する教育、ジャーナリズム、人間を中心にしたデザインなどのテーマで発表を行い、「Your English Program (YEP)」などを始めとする船内活動でリーダーシップを発揮しました。

- **ナショナル・プレゼンテーション**：参加国11か国が、ショー形式とプレゼンテーション形式で、国毎に質の高いナショナル・プレゼンテーションを行いました。各国の文化と特徴が巧みに表現されていました。

### 謝辞

日本国内閣府、在オーストラリア日本国大使館、日本青年国際交流機構、管理部位、訪問国の「世界青年の船」事後活動組織の皆様には、非常に丁寧かつ寛大な対応をしていただき、オーストラリア代表青年団よりお礼を申し上げます。今回の「世界青年の船」事業が見事に成功を収めましたのも、関係者の皆様による努力、献身、綿密な計画によるものと存じます。

長期的な視点のもとに現代の若者たちの間に平和と協力の関係を育て、国際協力と国際理解の高い水準を更新してゆく日本国政府の姿勢は、称え尊敬されるべきものです。

6週間にわたって、私たちは若手リーダーたちのコミュニティのつながりを強化し、「Together we SHINE（共に輝こう）」というスローガンを真に体現することができました。参加青年たちは、事業を通して成長し、能力を分かち合いながら、活発で、共に参加する意欲に溢れ、エネルギーいっぱい活動の中で輝いていました。若手リーダーたちが力を合わせ、刺激しあい、可能性を現実にしていく姿を見守りながら、喜びを感じる瞬間が何度もありました。

### 来日前

オーストラリア代表青年団の選考は、日本国大使館とSWYAA オーストラリアが2017年9月に実施しました。11月には、首都キャンベラで三日間の来日前合宿が実施され、代表青年同士が直接会うことができる特別な機会になりました。その後は2週間ごとにビデオ会議を行い、準備作業を詰めていきました。

### オリエンテーションとホームステイ

- **山形県**：オーストラリア代表青年団は山形県庄内町に受け入れていただき、公式プログラムとして県庁の担当の方々や地元の学校を訪問しました。酒造や寺院などを視察し、日本文化体験も楽しむことができました。山形県のホストファミリー家庭に滞在中は、各参加青年が日本での日常生活や暮らしの課題などへの理解を深めることができ、事業の全体の中でも特にハイライトとなりました。この三日間の体験で多くの貴重な思い出と文化体験の機会を得て、「世界青年の船」事業の中で際立った印象を残すものになりました。

- **NYC**：設備が整ったNYCでの研修では、事業のオリ

- **非公式活動**：夜8時以降は、多くの自主活動に参加できる機会に恵まれました。SWY TED talks (TED形式の弁論大会)、SWY's Got Talent (タレントショー)、SWY World Cup (サッカー大会)、Martial Arts Festival (武道の披露) など、複数の活発な自主活動が展開し、参加青年たちの様々な才能が披露されました。オーストラリア参加青年も積極的に参加し、Global Teachers Network (教員ネットワーク)、Global Issues Discussion (グローバルな課題のディスカッション) といったネットワークの場作りに貢献しました。

- **デリゲーション・ナイト**：これは、船内での異文化交流体験の中でも際立って効果の高いプログラムで、参加青年の異文化に対する理解力を強化し、新しい友情を育てることにつながりました。特に「Japan Fes」では日本の各都道府県の食べ物と文化が見事に網羅され、全員が楽しめるイベントになりました。

- **クラブ活動**：クラブ活動は、様々な文化の手工芸、ダンス、伝統、言語、レクリエーションなどを楽しく掘り下げて学べる時間になりました。クラブ委員会の委員長はオーストラリア参加青年が務めました。

#### 訪問国活動

- **インド**：地元の人々が「神が創る国」と呼ぶコチ訪問は、色彩豊かなものになりました。コチ科学技術大学訪問、ストリートマーケット見学、コース・ディスカッション別の活動などを行いました。改めてインドの皆様、躍動感に満ちた訪問国活動をありがとうございました。

- **スリランカ**：入港セレモニーでの温かい歓迎から課題別視察まで、スリランカでの訪問国活動は事業のハイライトとなりました。大統領並びに首相始め政府高官の方々にお会いする非常に特別で光栄な機会も賜りました。あらゆる機会に歓待され、美とホスピタリティの国として、スリランカはオーストラリア参加青年にとって思い出深い場所になりました。

#### 提言

- **公式プログラム日程**：午前8時45分の点呼から午後9時まで、ずっとプログラムが続く日が多くありまし

た。1日12時間の活動は負荷が高く、体調を崩した参加青年も多数いました。公式プログラムは午前9時から午後6時までに収め、公式プログラムと自主活動の時間のバランスを改善していただくよう提案します。また、PYセミナーは内容が充実し専門性も高かったため、午後6時までの時間枠のうち1時間を割り当て、参加青年同士が協力する機会をもっと拡大できると良いでしょう。

- **セッションの長さ**：コース・ディスカッションとクラブ活動で、4時間枠が設けられていたことが何度かありました。しかし、1セッションは90分を限度に設定した方が、参加青年の疲労を避け、学びの効果を最大化することができるでしょう。
- **訪問国活動**：公式プログラムの中に、課題別視察を増やすことを提案します。課題別視察は、参加青年にとって非常に有意義な時間となりました。
- **ナショナル・プレゼンテーションのスケジュール設定**：日程が重複したため、NLとANLは、口頭発表の部分を見学することができませんでした。スケジュールを組む際には、重複のないように調整をお願いします。
- **コース・ディスカッション**：コース・ディスカッションのテーマに関して、参加青年の学習経験や実務経験のばらつきが激しかったようです。ファシリテーターがその幅広さをカバーできるようにコース内容を工夫し、全ての参加青年にとってより魅力的、かつやりがいのある内容に調整していただくよう提案します。
- **大学訪問**：二つの寄港地で大学生との交流ができたことは非常に有意義で、コース・ディスカッションのテーマに関して地域の視点を学ぶことができました。ディスカッションをもっと深められるようにするため、時間枠の拡大を希望します。

#### 結びの言葉

平成29年度「世界青年の船」事業での経験は、私たち全ての参加青年の心の中に刻まれ、また、地球規模の友情を受け継ぎ、日本への強い愛情を持つことができました。日本国政府が若手リーダーたちに向ける信頼に、改めてお礼を申し上げます。その寛大な姿勢のもとで、リーダーたちは可能性を追い求め、より良い世界を形作っていくことができます。「世界青年の船」事業の貴重な思い出を生涯大切にし、ここで学んだ新しい見識とグローバル・マインドを持ち続けていきます。

Together we SHINE! (共に輝こう)

## インド

「世界青年の船」事業参加国として平成29年度もインドを招へいしていただき、非常に光栄かつありがたく感じております。この名誉ある事業に定期的に参加することが叶い、私たちは、自国にとって最高レベルの誇りと評価を守り、事業の学びを持ち帰り受け継いでいく責任の重さを感じました。

#### 選考手続きと来日前の準備

「世界青年の船」事業は、いろいろな意味で特別のものでした。青年スポーツ省に応募した後、最後は大臣との直接の面接試験を受けるという長いプロセスを経て、ようやく参加青年として決定しました。参加青年それぞれに異なる経歴を持ったメンバーが選ばれ、優秀な社会人と学生の混合チームでもありました。才能と知力、希望と自らの将来を抱いた、すばらしい人材が集いました。インドでの事前研修は非常に長時間でしたが、有意義でもありました。SWYAAインドから常に積極的な支援を受け、精神的、肉体的、感情的に事業に参加する準備を整えることができたのは、ここでしか得られない成果でした。インドの広大な国土ゆえに、ナショナル・プレゼンテーション、デリゲーション・ナイト、インドの知的・文化的多様性を反映した各種プレゼンテーションなど、準備の過程で注意深く対応しなければならない場面がたくさんありました。

#### 来日とホームステイ体験

他のいかなるものとも比べようのない興奮で心をいっぱいにして、1月16日に成田国際空港に降り立ちました。この旅は想像を超えるものの連続で、言葉で表現できる限界を超えたものでもありました。

インド代表青年団は、ポーランド代表青年団とともに、熊本県を訪問しました。たった二日間でしたが参加青年たちはホストファミリーと親しい関係を築き、その存在が人生の中で大切な場所を占めるようになりました。ホストファミリーと過ごした最終日には、幸せの大きさの分だけ別れの涙がみな瞳から溢れました。この事業で最初に迎えた感動体験は、異国での新しい家族との出会いでした。

#### 陸上研修と船内研修

NYCでは、日々、次々に新しいことを吸収し、異文化体験を共有しました。スケジュールは様々な活動で細かく時間分けされ非常に複雑だったと同時に、参加青年として必要なあらゆる準備ができるようになっており、リーダーシップ、プロジェクト・マネジメント、異文化体験学習、コース・ディスカッション、その他たくさん

#### スリテジャ・カマルス

のことを学びました。ディスカッションは、それを通して興味を持つ分野の知識や経験を得るだけではなく、ビジョンや夢、自分仕様のプロジェクトなどを育てることを促しながら、実体験を提供しようとするものでもありました。

また、NYC滞在中には、スポーツ&レクリエーション、都内視察、課題別視察といった楽しむための活動もありました。また、多くの参加青年にとって、初めての雪を見ることができたのも良い思い出です。

日本参加青年の皆さんと出会い、絆を作ったことから、たくさんの感動のつながりが生まれ、それは事業が終わるまで続きました。異国から来た参加青年同士という私たちの関係は、「世界青年の船」事業という一つの家族の一員へと、ゆっくりと変化し始めていました。

皇太子殿下御接見並びに安倍総理大臣表敬訪問では、ナショナル・リーダーとして名誉ある経験をさせていただきました。それぞれの国から来た地球大使という立場でお会いできたことを光栄に思っています。思い出深い一日としてずっと心に残るでしょう。

陸上での数々の興奮体験に続き、海上でも冒険と発見の旅を続けるべく、私たちは乗船に向けて興奮していました。出航は、2018年1月29日でした。それは、すばらしい旅のほんの始まりの一端であり、その先にはめくるめく感動が待っていました。

にっぽん丸は私たちの第二の家となり、参加青年がキャビンで共同生活を営むというだけでなく、お互いの人生をも共有するような、心地良い住処となりました。食堂には皆がお腹を空かせて集まり、ラウンジやデッキは明るさと笑いに満たされて、その響きはこだまのように、私たちの心の中にずっと残っていくのでしょうか。

船内活動は、PYセミナー、スキルセミナー、クラブ活動など、プログラムが満載でした。各セッションが緻密に計画され、スケジュールが組まれ、参加青年に自信や精神的・感情的成長を与え、真のグローバル・リーダーを育成する構成となっていました。

レター・グループでの活動も忘れることができません。もはや第二の家族のような存在です。私はNLとして自分のレター・グループのメンバーを指導する責任があり、メンバー同士の良い一体感を作り、気持ちと知力の成長を見守り、それぞれが異文化への信頼と尊重を育むのを助けるべき立場だと心得ていました。しかし、いざ蓋を開けてみると、私たちは彼らから、その全てを学ぶことになりました。

プログラムがより良いものになるよう活発な議論と建設的な意見交換を行い、全員が納得できる合意形成を目指しました。意義深いと同時に楽しいNLミーティングを、毎回心待ちにしていたほどです。

「世界青年の船」事業の円滑な遂行のためには、NLのチームビルディングと密なコミュニケーションが肝になります。私たちのチームワークの良さは、参加青年たちにとって、そしてプログラム全体にとって、プラスの影響を与えたのではないでしょう。

本年度事業ですばらしい仲間とともにNLを務めることができ、感謝の気持ちでいっぱいです。皆さん、ありがとうございました。

私が今回いただいたチャンスに対して恩返しをすべく、今後、将来のNLに私の経験を共有するとともに、何らかの形で「世界青年の船」事業の進化・ブラッシュアップに向けた提案をするつもりです。リーダーシップ育成とグローバルネットワークの構築、ひいては世界平和の推進につながる唯一無二の「世界青年の船」事業。その継続と発展を、強く願っています。

つまり、参加青年が自主性やリーダーシップ、企画力を養うためには、自主活動の時間が非常に重要なのです。自主活動の時間を最大限に確保することが、本事業の成果につながるでしょう。

### コミュニケーションとチームワークがカギ

NLを務めた今回は、9年前に参加青年だったとき以上に、コミュニケーションの重要性と難しさを痛感しました。まず、120人を超える大所帯の日本代表青年団のリーダーとしては、なかなか一人一人とじっくり話ができないことが悩みでした。困っている人はいないか、思い悩んでいる人はいないか、常に気を配ってアンテナを張り、様々なチャンネルを通じて情報収集やコミュニケーションに努めましたが……。それでも限界がありました。そんな私を支えてくれたのは各国NLや管理部の皆さんです。心から感謝申し上げます。

一方、“チームNL”の一員としては、チーム内でうまくコミュニケーションをとることができました。10月のNL会議時からチームワークの良さを発揮し、プログラムを通して信頼関係を醸成。日々のミーティングでは、

## 日本国

これからの時代の世界をより良くするグローバル・リーダーとは何かを問い続けた1か月半でした。本事業の特色は、船という非日常空間にあって、各大陸から選ばれた次代を担う代表青年たちがそれぞれの役割を担いながら自ら主体的に参加することにあり、変化の激しく曖昧かつ複雑な現代を生き抜き、次の世代を担うグローバルユースリーダーを育成する場としてふさわしいものだと思います。

### 事前研修

9月に行われた五泊六日の事前研修では、全国から集まった参加青年たちが初めて顔を合わせる場でした。緊張した参加成年たちの心をほぐすとともに、安心して自分たちのことを表現することの大切さを伝えました。また事業に向けて一人一人が自分の成長目標（マイチャレンジ）と全体に対する貢献目標（マイコミットメント）を掲げました。最終日には、たった数日間とは思えないほどお互いに打ち解け、涙を流しながらも自分のことを受け止めてくれた仲間たちに感謝の言葉を述べる姿が印象的でした。

### 船上活動

船上では全ての活動において、それぞれの立場でのリーダーシップが求められましたが、私は、その中でもNLたちとの関係性、日本代表青年団におけるリー

ドで迎えられ、大学だけでなく心も開いていただくことができました。主に社会の諸問題に関する意見交換や、文化パフォーマンスの交流を行いました。

SWYAA インドとSWYAA スリランカが中心となり、訪問国活動の準備を支援しました。その貢献の大きさは何度言葉を尽くしても表現できず、何度感謝しても足りないと感じています。

### 結び

最後になりましたが、私たち一人一人の中のグローバル・リーダーを育てるこのプロセスに関わってくださった全ての皆様に、お礼を申し上げなければなりません。

内閣府、日本青年国際交流機構、管理部員の皆様におかれましては、インドをこのグローバル・リーダーを育成する事業の参加国として迎え、常に必要な支援を継続していただいたことに感謝申し上げます。

SWYAA インドの皆さんは、私たちの心にずっと居場所を持ち続けていく存在として、特筆に値します。常に信頼と支援を提供してくださったこと、そして、私たちを下船後もずっと続いていくこのすばらしい旅の一員にくださったことに感謝します。参加青年一人一人が、インドについて、また、インドが取りまとめている様々な地球規模の課題に対する活動について、もっと知りたいという意欲を持つようになったことをお知らせし、以上、御報告とさせていただきます。

NL 小島まき子

な変化を目の当たりにしたことは、NLとしての大きな喜びでした。

### 自主活動でリーダーシップが育まれる

1か月強という短期間で参加青年たちが大きな成長や変化を遂げることができるのは、多様性が凝縮された「世界青年の船」事業だからこそ。そこでは、(基本的なルールを守りさえすれば) どんなことにでもトライできるのです。

船上での日々は学びと発見の連続で、青年たちは自分と向き合うことを余儀なくされます。そんな中、様々な活動を通じて青年たちは自らを表現し、知見の共有や意見交換を行いました。

それが最も活発だったのが、自主活動の時間やフリータイムです。特にプログラム後半は、休日や自主活動時間がバラエティ豊かで魅力的な企画で埋め尽くされました。(私自身も、興味のある企画が多すぎて選ぶのに苦労しました。) これはまさに、本事業が目的とするリーダーシップが大いに発揮された結果だと言えます。

### ナショナル・プレゼンテーションと自主活動

船内生活の中で最も待ち焦がれていたプログラムの一つがナショナル・プレゼンテーションでした。見る者に、国それぞれに存在する美しい文化の多様性を理解させてくれる各国代表青年団の努力の成果は、強く印象に残るものでした。旅を終えるまでには、私たちは皆、お互いの文化的な側面をよく理解できるようになっていました。

各国のナショナル・プレゼンテーションは構成に長け、見ていて非常に楽しかったです。何か月もかけた努力がついに報われ、我々インド代表青年団は、違ったスタイルのダンスや、様々な地域の民族衣装を活用したファッション・ショーや、いくつかの歌を通してインドの多様な文化性を表現することを試みました。船内で見てくださった皆さんには好評をいただき、楽しんでいただくことができました。

参加青年主催の自主活動も数多く開催されました。ポリウッド・ダンス、メキシカン・サルサ、芸術作品の展示、朗読、ファッション・ショーなどがありました。

### 訪問国活動 — インドとスリランカ

今年のにっぼん丸は美しいインド洋上に航路を取り、インドとスリランカを訪れました。それぞれの寄港地に三日間滞在し、知的交流や文化交流のセッションが多数開催されました。インドのコチ科学技術大学、スリランカのコロンボ大学では学生の方々からの温かい歓迎の言

## 日本国

### Together we SHINE! I am, because we are.

これは、「一人一人がほんとうの自分を見せて輝きを分かち合おう。限界を超えて自分の可能性を広げよう。みんながいるからこそ私は私でいられる」という意味を込めた、平成29年度「世界青年の船」事業のスローガンです。ここにうたっているように、プログラムを通じて、参加青年たちは様々な場面でそれぞれの輝きを見せました。

参加青年たちの“SHINE”とは何でしょうか。その源は、各自の個性や魅力、可能性、潜在能力です。それらを最大限に引き出し、ありのままの自分をぶつけることで、色とりどりの輝きが生まれました。

それを可能にするのは、「世界青年の船」事業ならではの、安心・安全な環境における素の人間同士の交流やピア・ラーニングです。互いを尊重し、違いを受け止めて楽しみ、多様性から学び合う……。

ときには摩擦や葛藤もありますが、自分の快適ゾーンから一歩踏み出すことが、自身の成長や新たな自分の発見、自信の醸成につながるのです。青年たちのそのよう

ションを二つの部分に分けて、違ったものを組み合わせることで、一つの講義が4時間続くという状況を変えるのが良いと思います。

NL に関してですが、事業の改善に関わる時間を増やすことを提案します。コース・ディスカッションや講義など公式プログラムの全ての部分に出席し、同時に参加青年たちの心のケアをしたり、発生するいろいろな問題を解決するために力を注いだりしているのです。NL が集まってすぐにでも具体的に改善できることを話し合う時間がほとんどないのです。NL チームは、管理部と参加青年の橋渡し役です。もっともっと事業に貢献することができると思います。

#### これから何をするのか：事後活動

メキシコ代表青年団全員にとって、魅力に溢れる3人の既参加青年による二日間の事後活動セッションはとても素晴らしいものでした。このセッションは、事業で学んだことをいかして私たちに何ができるのかを、チーム全体で理解するのを助けてくれました。メキシコのSWYAA はとても活動的で力がありますが、今回のチームが一つの家族として活動し続けていけるよう、私たち自身の事後活動を立ち上げるように励まされました。

最後になりますが、メキシコ代表青年団を代表して、日本国政府内閣府と事業管理部の皆様、にっぽん丸船長とクルーの皆様、そして本事業にかかわってくださった全ての方々に心より感謝申し上げます。皆様の御支援と事業を順調に進めるための御尽力のおかげで、事業は素晴らしいものとなりました。この事業を通して与えていただいたたくさん素晴らしい経験をいかして、社会に貢献していきたいと心から願っています。

グラシアス！

ナンディオ・ドゥラオ

グなど、出発前の準備を滞りなく実施することができました。

#### 石川県でのホームステイ

来日して間もなく、モザンビークの代表青年団は石川県金沢市でホームステイに参加し、二度とない経験をすることができました。日本の家庭の日々の暮らしを体験し、金沢市や日本の歴史と文化についてより深く学ぶことができました。石川県内の野々市市も訪問しました。また、参加青年によるダンスのパフォーマンスを通して、モザンビークを日本の皆さんに紹介する機会にもなりました。

メント、コーチングについてなどいろいろなことを学びました。様々なアクティビティを通して、いろいろな形で自分たちの限界に挑戦しそれを広げていける体験ができたのがとても良かったです。同時に、ほかの人たちを力付けることの大切さにも気付くことができました。

#### 訪問国活動：コチとコロンボ

今年の事業では、船はコチとコロンボに寄港しました。これらの場所での体験もとても興味深いものでした。様々な活動を通して一つの街の多種多様な面を見ることができたからです。課題別視察からは、文化や若者、地元のコミュニティについてたくさん学びました。様々な活動があって時間が足りないことは理解していますが、短時間のホームステイを組み込むことを提案させていただきたいと思います。日本でのホームステイの思い出は本当に私たちの心に刻まれるものになりましたから、そのような機会があれば寄港地の体験をより学びの深い豊かなものにしてくれるでしょう。

#### 共に輝こう：将来の事業に向けての提案

NL たち間で生まれた友情と支え合いは、本当に心からのつながりとなりました。何か問題があればいつでもお互いを助け合いました。これらを踏まえた上ではありますが、事業開始前のNL 研修の時に、問題解決の研修を取り入れることを提案します。事業中は、自分のチームのマネジメントだけでなく、複数国の関わる課題を共に扱う場面がたくさんあるからです。

また、個人的には一つの講義やコース・ディスカッションが4時間続くのは長すぎると考えます。内容はとても興味深く、担当の方々もとても良い準備をされていると思うのですが、その長さで集中力を保つのは参加青年にとってかなり難しいことです。ですから、既存の各セッ

#### モザンビーク共和国

#### 選考過程と来日前の活動

初めて「世界青年の船」事業に参加するに当たり、モザンビークでは、円滑で見通しの良いプロセスに則った参加青年の選考に取りかかりました。まず書類選考を行い、通過した応募者に対して面接を実施しました。これは日本国大使館が主導し、青年スポーツ省と外務省の代表者から協力を得て実施しました。

また、不可抗力で応募者の辞退があり 出発前の活動を始めるわずか数日前に補欠で新しい2名の参加青年が決まりました。

遠隔地から参加した青年が2名いましたが、情報交換や意見交換にも支障はなく、チームビルディングのためのミーティングや資金集め、政府担当者とのミーティン

の方法で船の上で交流し、パッションやアイデアを共有し、学び合いの中で成長してきました。しかし、事業の真の成果は、事業参加後にそれぞれの国や分野で「世界青年の船」事業で学んだ精神を持って、学び続け、それぞれのプロジェクトを通じて世界を益々より良いものしていくことだと思っています。そして、それらの事後活動をサポートし続けることが私のサブNLとしてのミッションだと考えています。

Keep SWYing and Together We SHINE Forever!!

モニカ・ペドローザ・トレド

らでした。

各回の集まりでは、代表団として備えるためにメキシコの既参加青年によるいくつかのワークショップが行われ、「感情知性」や「異文化理解」など様々なことを学びました。これらの機会は、今回の代表団メンバーとSWYAA の間のより良いコミュニケーションにも役立ちました。

#### 日本での時間：金沢でのホームステイとNYC での研修

私たちは、日本で金沢と野々市というすてきな二つの都市を訪れる機会を頂きました。ホームステイをただだけでなく、地元の若者たちと一緒に様々な施設を訪れました。地元の御家庭が、私たちをお宅と皆さんの生活の中に招いてくださっただけでなく、本当に心を開いて歓迎してくださいました。この時間を特別なものにしたもう一つの理由は、私たちの新しい友人たちであり、同国からの初めての代表団となるモザンビークの青年たちと一緒に過ごしたからです。

ホームステイを終えて東京に戻り、NYC での研修を受けました。全参加青年が初めて顔を合わせて交流したこの期間は本当に特別な時間でした。レター・グループでの東京都内視察もありましたし、みんなとより親しくお互いのことを知り合う時間になりました。やはり寒かったですが、雪に覆われた東京を見ることもできました。

#### 人生を変える旅：船上での生活

船上での時は本当に素晴らしいものでした。ナショナル・プレゼンテーションの第2部が行われ、始まる前は15分の発表は短すぎると思っていたのですが、私たちの国の文化的な側面を紹介するというワクワクした気持ちを皆さんと共有できたことは、本当に素晴らしい経験でした。

そのほかにも様々な講義を通して、私たち自身のこと、リーダーシップや自己動機付け、プロジェクト・マネジ

のだから自分の可能性を広げたい、と様々なチャレンジを主体的にし始めた青年も出てきました。訪問国活動やコース・ディスカッション、クラブ活動など様々な新しい刺激もあり、大いに見聞を広め、知的にも成長しましたが、私は青年たちのこの内面的変化・成長こそもっとも大きな成果であると考えています。

#### 終わりに — Program to Project

「世界青年の船」事業というプログラムは、33日間の航海をもって終了しました。参加青年たちは、思い思い

#### メキシコ合衆国

メキシコ参加青年を代表して、私たちが愛してやまないこのすばらしい事業に再びメキシコを御招待くださいましたことに対し、日本国政府内閣府に感謝申し上げます。美しい祖国を代表する者として、この事業に再び参加できたことは私にとって幸せの極みであり、言葉ありません。しかも、今回はNLとして参加させていただくことができました。

#### 冒険の始まり：メキシコ参加青年の選考

選考過程は、本当に大変な作業でした。私は今回のメキシコ代表青年団のNLとして、選考過程をコーディネートする特権をいただきました。選考は、次のような数段階のステップで実施されました。応募書類と関係文書、ビデオの審査、そして週末に四つの市で行われた面接とボランティア活動。3,900人の中からここまで選ばれた25人の最終候補者と我々で行ったキャンプ。この最終段階の選考過程は、新しく採用されたものですが、各候補者の人柄を見るためにとても有効な方法でした。

選考は、在メキシコ日本国大使館と協力して行われました。同大使館からの様々な御支援と、私たちに対して示してくださった信頼に感謝いたします。選考にはSWYAAも協力しました。全ての関係者の協力に感謝します。11人のすばらしい青年リーダーが代表団を構成することになりました。

#### 我々自身を知り、ほかの参加国のことを学ぶ：出発前研修

代表団は事業参加の5か月前に確定しましたので、自分たちの紹介したいものを準備し、国をどのように代表したいのかを話し合うことができました。メンバーはメキシコのいろいろな地域に住んでいたのですが、何回か全員で集まりました。ナショナル・プレゼンテーションやセミナー、クラブ活動を準備するためでもありましたし、チームとしてお互いに知り合うため、そして一番大切なこととして一つの家族になれるようにという想いか

## オマーン国

サイード・アリ・アルドゥリ

### 船上研修

にっぽん丸における研修はすばらしく、他国の参加青年と共に刺激ある経験ができたことで、船上生活に向けて準備することができました。

### モーニング・アセンブリー（朝礼）

モーニング・アセンブリーは毎朝8時45に行われしました。この時間までに参加青年はグループ毎に集合しなければなりません。管理部は全参加青年に連絡事項を伝え、参加青年は活動について発表しました。

### アドバイザーによるセミナー

リーダーシップとプロジェクト・マネジメントの分野について専門家によるセミナーが行われました。私たちは、場面に応じて全ての人々がリーダーになれること、また内側、前方、後方、側面という四つのリーダーシップのタイプがあり、それらが全てリーダーにとって等しく重要であることを学びました。

### コース・ディスカッション

今年度の「世界青年の船」事業では7コースが取り上げられました。全てのトピックで世界的な課題がカバーされており、参加青年のディスカッションの能力が向上しました。また、他人の意見を聞く力、自分の意見を持つこと、そしてそれをまとめる力を身に着けました。

### 参加青年によるスキルセミナー

参加青年が学ぶだけでなく、教える側になれるチャンスがこのセミナーです。自分の知識を互いに共有した、どれもすばらしいセミナーでした。セミナーを主催した青年たちは皆、自分の時間を費やし、積極的に仲間たちをサポートしていました。

### クラブ活動

参加青年によって様々なクラブ活動が行われました。エキシビションで発表されたクラブ活動の成果発表には大変驚きました。

### 自主活動

自主活動は青年自らの興味や関心に基づいて、参加青年により実施されました。ここで参加青年は、それぞれの経験や将来の夢を仲間と共に共有するチャンスを得ることができました。

### デリゲーション・ナイト

各国はデリゲーション・ナイトを通して、自国のアイ

### はじめに

この度、オマーン国の「世界青年の船」事業への参加が10回目となりましたことを光栄に思います。本年度は2018年1月16日から3月3日まで46日間の事業でした。参加国は、オーストラリア連邦、インド、メキシコ合衆国、モザンビーク共和国、ペルー共和国、ポーランド共和国、南アフリカ共和国、スペイン王国、スリランカ民主社会主義共和国、主催国である日本の11か国でした。そしてインドのコチ、スリランカのコロンボに寄港しました。参加青年の数は日本参加青年と外国参加青年、合計約240人でした。オマーン国からは12名の情熱に溢れる若い青年が参加することができ、大変光栄でした。

### オマーン国の参加青年団

スポーツ省とSWYAAオマーンは、11人の参加青年とナショナル・リーダーを選考しました。

### 事前研修

オマーン参加青年団は、ナショナル・プレゼンテーション第一部と第二部、セミナー、自主活動、表敬訪問のギフト、民族衣装、名刺、協賛、各国イベント（デリゲーション・ナイト）について話し合うために、本事業の開始前に5回のミーティングを行いました。さらに、チーム精神を強化し、団としてのチームワークを高めるための様々な活動を行いました。既参加青年も経験の共有とアドバイスをすることでサポートしてくれました。彼らを通じてマスカットの日本国大使館から、日本文化に関する詳しい情報を得ることができました。

### 岩手県でのホームステイ

オマーン参加青年団は岩手県を訪問しました。異なる家庭で三日間のホームステイを体験し、日本の伝統的なライフスタイルに深く接することができました。雪を見たのは、殆どのオマーン青年にとって人生で初めてのことでした。私たちを温かく迎えてくださり、様々な経験をさせてくださったホストファミリーの皆様に、心から感謝しています。

### 陸上研修

ホームステイを終えた後、NYCに移動しました。船上での活動に向けて、研修とオリエンテーションが行われました。1月24日に行われたナショナル・プレゼンテーション第一部では、私たちはオマーンの文化、ホスピタリティ、教育と健康、歴史、経済、地理、女性の役割について発表しました。

する機会を得ました。モザンビークだけでなく、全ての参加国の参加青年がPYセミナーやスキルセミナーを主催し、知識や経験を分かち合うことができました。

### クラブ活動と自主活動

クラブ活動では、全ての参加青年がクラブの設立者あるいは参加者として興味のある分野を選び、主に文化的な活動を行いました。特にモザンビークの参加青年にとっては非常に重要な経験の一つとなり、ほかの国や様々な現実について、リラックスした雰囲気の中で多くのことを学ぶことができただけでなく、私たちの様々な行動や信念によって世界を変えられるという認識を共有する時間を持つことができました。

### 提言

- 「世界青年の船」事業では、私たちが暮らす世界の本当の姿を体験し、自分たちが世界をより良い場所にしていけるという実感を持つことができる、またとない貴重な機会になりました。私たちの真のターニング・ポイントとなるような経験でした。
- 関係者が共にその見識と独自の経験をもって貢献することで、時間の経過とともに全ては必ず良くなっていくと私たちは信じています。
- プログラムの内容が多く、それが参加青年にできるだけ多くの交流の機会を提供することが主な目的であったとしても、とても忙しい状況でした。
- 訪問国活動に関しては、特に内容を早めに決定し情報を前もって提供してもらえると、より良い準備につなげることができたと思います。
- 初期を過ぎてきた頃から、参加青年は自身の知識を皆と共有する活動になじんできていたと思います。そこで、事業後半の期間中は、自主活動の時間を増やしていただけるとありがたいです。

### 謝辞

私たちを温かく受け入れてくださった日本国並びに訪問国の政府に、深く感謝の意を表します。特に、管理部、にっぽん丸クルー、指導官並びにファシリテーター、訪問国の事後活動組織の皆さんの御尽力のおかげで、私たちの活動が円滑で充実したものになりました。どうもありがとうございました。末筆ではありますが、この度、モザンビーク代表青年団の「世界青年の船」事業初回参加に当たり、広い心で友情を築き、知識の分かち合いをしてくれた全ての参加国の参加青年の皆さんにお礼を申し上げます。

### 陸上の活動

陸上研修は、日本滞在の第二週に国立青少年記念オリンピックセンターにて実施されました。日本参加青年と初めて合流したのもこの施設です。

開講式、アイス・ブレイキング、オリエンテーションなどをはじめ、セミナーやコース・ディスカッションの第1回目のセッションにも参加し、課題別視察や都内視察を通して美しい東京の街を見ることもできました。この時期に行ったモザンビークに関するプレゼンテーションは、文化よりもむしろ歴史や情報・データの切り口から紹介する形のものになりました。

### 船内活動

にっぽん丸の船上では、ほかの10か国の参加青年との交流を更に深めました。船上でも主だった活動のほとんどが実施されましたが、加えて、事後活動に関する明確な理解を得ることもできました。

### 訪問国活動

寄港地であるインドとスリランカの訪問国活動では、各国政府の高官の方々、現地の大学生の皆さん、視察先の方々などにお会いして、体験を共有し、より良い世界への展望を共有することができて嬉しかったです。

### 表敬訪問

表敬訪問と御接見を通して、私たちの社会的役割を改めて認識するようになりました。NLとANLは、ほかの方々と一緒に、日本国皇太子殿下への御接見並びに日本国総理大臣、スリランカ大統領並びに首相、インド・ケララ州青年省代表への表敬訪問の機会をいただきました。

### コース・ディスカッションとセミナー

研修の核である各コース・ディスカッションと、リーダーシップやプロジェクト・マネジメントに関するセミナーでは、将来的な活動を計画するに当たっての基本を学ぶことができました。ファシリテーターや指導官の方々が常にいらっしゃり、必要な支援や指導を提供してくださいました。

### ナショナル・プレゼンテーションとデリゲーション・ナイト

文化紹介のパフォーマンス、歴史や社会事情のプレゼンテーション、デリゲーション・ナイトの主催という三つの異なる活動を通して、モザンビークを皆さんに紹介

なる第1回ナショナル・プレゼンテーション(NP 1)でも、より芸術的な発表となる第2回ナショナル・プレゼンテーション(NP 2)でも、ペルー人であるということが何を意味するのか、大きな文化的そして歴史的背景を持つ真に多様なこの国の誇りとアイデンティティとは何なのか、これらを皆さんにお伝えできるようベストを尽くしました。一番伝えなかったのは、私たち若者がペルーの更なる発展のためにどのように貢献しているのか、そして自分たちの国の変化と改善のために、自らがその模範になろうと心に決めているのだということでした。インドとスリランカでも、このナショナル・プレゼンテーションの一部を披露することができました。私たちの愛する国ペルーの豊かさを、世界の人々にお見せすることができたことは大きな喜びです。私たちのナショナル・プレゼンテーションはその使命を果たすことができたと考えています。ペルーが非常に深い文化的多様性のある国であること、そこには貴重な絆と融合が見られること、そして同時に発展途上国としての多くの課題を抱えていることを皆さんに知っていただけたと思います。そして強調したかったのは、私たちが自らの社会の成長のために力を尽くすことへの情熱を持っており、必ずそのために行動するということです。

### 終わりに

これは私が話をした参加青年たちにいつも言っていたことなのですが、私は「世界青年の船」事業は人生のターニング・ポイントにすべきだと考えています。このような事業に参加したならば、私たちは世界をより良いものにすることに意識を集中し、活動すべきです。具体的な行動や試みが大切です。世界をより暮らしやすいものにするために私たちの能力をいかすことは、私たちの責任でもありそして特権でもあります。世界のことに関心を持ち、小さな革命を起こすこと、そして私たちの家であるこの星を維持するために必要な変化や改善をもたらすことが、私たちに求められています。人々のために奉仕する生き方は、真に榮譽ある意義深い生き方です。将来の「世界青年の船」事業の参加青年にも、この気持ちを持って上に書いたような目標に向かって、そしてほかの持続可能な社会の目標の達成に向けて活動して欲しいと思います。

バヴェル・ロゲル・ジェベツキ  
な機会でした。

### 10月のNL会議

私自身にとっては、事業の体験はNL会議への出席の

### 陸上研修

地方プログラムを終えて東京へ戻り、既にNYCに入所していた日本参加青年たちと出会い、温かく迎えてもらいました。ここで日々を過ごす中で、多くの友情が芽生え、たくさんの協力関係やチームも作られていきました。ナショナル・プレゼンテーションの第1部を発表し、リーダーシップ・セミナーも行われました。NLとANLは日本の総理大臣を表敬訪問し、皇太子殿下の御接見を賜るという人生で一度の榮譽を体験しました。お二人とも私たちを心から友好的にそして外交儀礼と共に迎えくださり、日本と各国間の更なる絆の強化を感じる場となりました。

この研修期間中には、ほかにも様々な興味深い活動がありました。都内視察やスポーツ&レクリエーションデー、そして第1回目のコース・ディスカッションなどです。どれもが建設的で教育的な内容でした。「世界青年の船」事業の中では、このような学びの体験が常に生活の中心になっています。

### 海の女王にっぽん丸船上で

東京の研修施設を離れ私たちはついに、これから30日間の家となる壮麗な船にっぽん丸に出会うため、横浜港へと向かいました。船上での特別な場と日々のことを言葉で表すことは非常に難しいのです。それは、美しい日の出や日没、見渡す限りの海を眺めながらデッキを歩くこと、すてきで親切的クルーの方々、そして参加青年一人一人の能力を最大限に伸ばすよう計画された研修などでした。船内ではインフルエンザの流行が心配されるという小さな危機にも直面しましたが、管理部の方々と参加青年の協力によってそれを抑え、研修の目的は予定どおり達成されました。ペルー代表青年団は、各国メンバーからたくさんのことを学び、そして一生続く人的なつながりを作ることができました。

### ナショナル・プレゼンテーション：ペルー人であることとその誇り

ナショナル・プレゼンテーションは、これまで「世界青年の船」事業に参加してきたペルー代表青年団にとって最も誇れることの一つとなってきました。私たちはその準備に3か月以上の時間をかけ、特別な思い入れと愛情を注いでいます。今回も、よりアカデミックなもの

### ポーランド共和国

何千キロもの旅をして日本に着いた私たちを待っていたのは、言葉では言い表せない温かな歓迎でした。

私たちが参加した「世界青年の船」事業は、様々な文化を体験し世界中から集まった人々と出会う本当に特別

### 最後に

一生に残るこの経験を与えてくださった日本国政府に感謝申し上げます。11か国、約240人の参加青年と46日間共に過ごせたことで、お互いの人生について知り合うことができました。このすばらしく構成されたプログラムのお陰で、事業のメインとなる目標を達成することができたと思います。それは、全ての青年が安全で適切な環境の下で、全参加国に関連するグローバルな課題について話し合う機会を与えてくれたということです。

事業期間中の全ての活動やイベントを通じて、参加青年はプロジェクト・マネジメントやリーダーシップを磨き、それぞれの潜在能力を発見することができました。

コース・ディスカッションは、異なる視点を聴く力や理解する力、そして、異なる考え方に敬意を示すことを参加青年に教えてくれました。

これら全ての経験を与えてくださった日本国政府に、再び感謝を申し上げます。オマーン国がいつまでも、この上なくすばらしい本事業に常に参加できるようになれますことを願っています。

などの準備をしました。

10月に東京で行われたNL会議の後は、準備が更に密度を増しました。ナショナル・プレゼンテーションの準備に更に力を注ぎ、必要な書類を作成し、リハーサルのために最低週2回は集まりました。さらに、各自の成長を目指すとともに、チーム作りとチームの絆の強化に努めました。この期間は、チームメンバーがお互いを深く理解し合うための時となりました。

### 岩手県でのホームステイとホストファミリー

私自身が一参加青年であった数年前、奈良県で初めて日本人の御家族に迎えていただき、そのすばらしいおもてなしの精神に接しただけでなく、真に心優しい人たちと知り合うことができました。今回私たちはオマーン代表青年団と一緒に岩手県を訪れ、そこで上記の体験に勝るとも劣らない経験をさせていただきました。岩手県はとても寒い地域に、最高に心の温かい人たちが暮らす場所です。各メンバーは、それぞれのすてきな家族と過ごす中で、日本の文化について深く知ることができました。それは、例えば人々がお互いを尊敬し大切にしようことであり、親切さや日本を愛する気持ちなどについてです。岩手では、ナショナル・プレゼンテーションのミニ版もさせていただき、地元の学校でペルーの熱帯森林地方の踊りを披露しました。これはとても豊かな経験でしたし、その場の全ての人とすばらしい絆を作ることができました。

デンティを表現することができました。これは一つ屋根の下で11の異なる国々を経験することのできる、本プログラムで最も貴重な経験の一つです。文化、民族衣装、歴史、食べ物。これら国によって異なるものに焦点を当てたことで、「世界青年の船」事業のゴールの達成に近づくことができました。我々は、一つのグローバルな世界になったのです。

### 訪問国活動

インドとスランカの2か国に寄港しました。寄港地活動と施設訪問はコース・ディスカッションのグループごとに行われました。

訪問国活動を通じて、ホスト国の文化を深く知ることができました。現地の青年と地域の課題について議論し合い、より良い未来に向けたグローバルな課題解決策を導き出しました。とてもよく構成された両国の寄港地プログラムのお陰で私たちはすばらしい経験ができたとともに、両国への関心が深まりました。

### ペルー共和国

「世界青年の船」事業に参加できることは本当に名誉なことであり、特別な責任を伴うものでもあります。ペルー代表青年団は、ペルーの文化を適切な形で代表する者であるように努めました。私たちは、この使命を果たす最も良い方法は次のようなことだと考えました。それは、メンバーがまず各自で、そして次にチームとして成長できるよう最善を尽くし、その中でほかの国の青年たちに我々の国の現代的な本当の姿を示せられるようにすること、そして自分たちを最高の状態に持っていくのだという想いと決意をメンバー全員で共有することです。

私たちは明確な目的意識を持って事業に臨みました。一つは与えられたこの機会に感謝の気持ちを持つことと、自国を最善の形で代表すること。そしてもう一つはほかの人たちからできる限り多くのことを学ぶことです。

### 出発前の準備

ペルー代表青年は、2017年9月に顔を合わせました。様々な背景を持ち、年齢も出身地も専攻も違う者たちが集まり、新しいペルー代表青年団が結成されたのです。この事業には何百人もの応募があり、その中からペルーのアイデンティティと文化、レガシーを代表できる青年リーダーたちが選ばれました。

この直後から正式なミーティングを開始し、最初の4週間は毎週ミーティングを行いました。各回様々な論点を扱いました。協賛企業探しやナショナル・プレゼンテーションの概要作り、セミナーや各種活動、社会包摂活動

ために10月に日本を訪れた時に始まりました。この会議は事業への準備のために非常に大切なものでした。同会議は各国のNLを一つにし、すばらしい協力関係の中で準備を進めるきっかけとなりましたし、その協力関係は事業中もずっと続きました。

#### 参加青年団の選考

日本国政府内閣府との協力の下で、力強くすばらしいそして多様性のあるメンバーを選出してくださいましたポーランド外務省と在ポーランド日本国大使館に感謝いたします。私たちは、3か月にわたって大変中身の濃い組織作りと準備の期間を過ごしました。ワルシャワでのミーティングのほか、定期的にインターネット上でのミーティングを行いました。また、多くの企業や団体の支援を受けてきました。これらのたくさんの方々からの支えが無ければ、私たちの事業参加における成功はあり得なかったでしょう。ありがとうございました。

#### ポーランド代表青年団

私たちは、チームスピリットを創り出し、協力して活動してきました。様々な背景や資格・能力を持つメンバーがいたため、あらゆる場面で効果的な動きができました。

#### 熊本県でのホームステイ

日本の南へと移動する飛行機の中では、この旅を共にしたインド青年たちと混ざって座るようにし、おかげで本当にあっという間にとても仲良くなることができました。翌日の各種施設の訪問はとても楽しいものでしたし、夜には歓迎会の場で短い文化紹介をさせていただきました。

ホームステイは本当にすばらしく、価値のある体験でした。その二日間、私たちは日本の家族の一員になることができました。まるでその家の子供のように優しさと深い愛情を持って接していただきました。家族の皆さんに対して懐かしさがいつまでも心から離れません。

それぞれの御家族が、御自宅と皆さんの時間や生活を私たちと共有する、と決心してくださいました勇気に感謝します。このことに対する敬意と称賛の気持ちを忘れないようにすれば、私たちも必ずやその立派な例に習って行動することができることでしょう。そしてそのような行動の中から、私たちが大きな一つの家族なのだということ、地球という共通の家を共有しているというだけでなく、真の意味で違いを超えて本当に親しい関係になれるのだということを理解できるでしょう。

#### 陸上研修

NYCに到着して日本の参加青年たちに出会いましたが、彼らはまず、私たちの宿泊とオリエンテーションについて、いろいろと助けてくれました。もてなしの心を

持って接してくれていると感じ、私たちもできる限りの感謝の気持ちを示しました。研修では、事業中の活動に関する理解の助けが得られるとともに、尽きることはない新しい出会いに心が躍りました。

#### 表敬訪問

ポーランドNLとして日本の皇太子殿下と総理大臣にお会いする機会を頂けたことにも感謝いたします。このような機会は、当事業に参加することの責任の重さをあらためて思い起こさせるものであったと同時に、私たちが社会に貢献し、より良い未来を作っていくことに心を傾けることの必要性をはっきりと分らせてくれるものでした。

#### 船上研修

横浜での乗船と船旅への出航は、信じられないほどすばらしいものでした。ここから、感動的で学びの多い日々が始まったのです。「世界青年の船」事業に参加するポーランド参加青年として、私たちは様々な活動に熱心に参加するようになり、与えられた多くの機会を通して自分たちを成長させ、共有し、そして様々な文化との間、人と人との間で学び合いました。事業の中に準備されている様々な興味深い活動を楽しむことができましたし、自分たちでもいくつかの活動を企画しました。

#### ナショナル・プレゼンテーション1、2

ナショナル・プレゼンテーションでは、私たちの国の文化や歴史、そして現在のポーランドのことを紹介できたほか、私たちの考えていることやショパンのような著名な芸術家のことも紹介し、伝統舞踊をお見せしたりして、参加青年全員にポーランドを体験してもらえるような構成にしました。プレゼンテーションに一貫性があり筋の通ったものであるように、そして限られた時間の中で最大限シェアできるよう念入りに準備しました。

#### デリゲーション・ナイト

この企画は、ポーランドの伝統や食事などのことを更に知ってもらうためのとても良い機会でした。ダンスを楽しんだり、ピクルスやチョコレート、クッキー、スープ、伝統的な食べ物、そしてアルコール飲料などを体験してもらいました。皆さんがポーランドに興味を持つようになったことを願っています。

#### クラブ活動

ポーランド工芸クラブは、参加青年が学びを得、文化的な体験をするためのとても良い場でした。このクラブの様々な活動を通して、ポーランドの伝統をよく理解してもらえたと思います。

#### 自主活動－民主主義の始まりと終焉

参加青年の視野を広げ、それぞれの考え方を共有することを目的に、二つのセミナーを開催しました。「民主主義の始まりと終焉」及び「若者と政治」です。そのほかにも、生活や科学の様々なトピックを扱った「20分で20のコンセプト」という活動も行いました。そこでは、水耕栽培についてや、ナッジ理論、アフェクティブ・コンピューティング、補助食品などについても扱いました。参加青年からもファシリテーターからも評判が良かったです。

#### コース・ディスカッション

事業の柱となるのがこのコース・ディスカッションで、様々なテーマについてやそれに関連する各国の状況を学び、国際的な話題についての知識を得ました。

#### PY セミナー

GLAP(グローバル・リーダーズ・アクティベーション・プラットフォーム)という企画では、事業後の参加者間の共同活動を促すプラットフォームを提案し、最適なモデルについて分析しました。

「社会の発展における数学の役割」という企画は、日々の生活で数学の能力を使うことの意義を示すことが主な目的でした。参加者は、様々なものの見方を論理的な思考と結び付ける方法を学びました。

#### 訪問国活動

事業のハイライトの一つは、訪問国活動でした。インドでは、まず一日目にケララ州政府関係者の出迎えを受けました。その後自由時間があったため、地元の市場を訪れて人々に会い、地元の生活を体験することができました。翌日はコチ科学技術大学を訪れて学生たちと会い、私たちの文化の紹介をしました。三日目の課題別視察では、知識を広げる機会を得ました。

スリランカでは、ほかのNLたちと一緒に大統領表敬という特別な機会をいただきました。知識が未来を作る基礎となるべきであるとお言葉をいただき、その後ギフトの交換をしました。その後の自由時間にコロombo市内を体験し、一日の締めくくりとして船上レセプションで大勢の興味深い人たちと出会いました。翌日のコロombo大学訪問と課題別視察を通して、スリランカのこと、そして同国の抱える様々な課題について理解することができました。SWYAAの準備してくれたスリランカ・ナイトは、忘れられないイベントです。最終日にはスリラ

ンカ国家青年サービス評議会(NYSC)への訪問の中で、ナショナル・プレゼンテーションのミニ版を行って、私たちの文化を紹介しました。

これらに加えて、給油のためにシンガポールに2回寄港しました。自由時間を取ることができたので、観光をしたり、人々と出会ったり、シンガポールの様子を知ったりすることができました。

#### 提言

- 夜の時間の一部を自主活動とするのではなく、毎日、夕食前に自主活動の時間を1時間半設けることを提案します。

#### NLとレター・グループの役割

この事業の中で、NLという立場はとても責任が重く努力の求められるものでしたが、同時に非常にやりがいのあるものでした。またHグループのリーダーとしての役割もとても栄養なものでした。そのレター・グループで私は全ての参加国から来た大勢のすばらしい人たちに会い、お互いから多くのことを学びました。

#### 将来への計画

今回の代表青年団としての事業活動は終わりましたが、コロomboでSWYAAスリランカの代表が言っていたように、これは「入り口の終わり」にすぎません。ですから私たちポーランド代表青年団は、今回の事業の様々な場面で大きな動機付けを得たことを踏まえて、これからSWYAAポーランドの活動にしっかりと関り、ほかの国のSWYAAとの関係を作り、共同での活動もしていこうと心に決めています。多くの皆さんをポーランドでおもてなしできることも期待しています。また、今回の事業で歩き始めた道を今後も進み、たくさんの国を訪れて更に新しい視点を取り入れ、そうすることで私たちのリーダーシップ能力を一層高めていきたいと思えます。私たちはそれぞれ、ポーランド社会で又は国際社会で積極的に活動していきたいと考えています。

共同で立ち上げたグローバル・リーダーズ・アクティベーション・プラットフォームにも積極的に関わっていくつもりです。このプラットフォームが、各国の参加青年にとって活動を始めるための場となり、社会貢献への入り口になることを目指します。

外国からの訪問者の受け入れをすること、そしてSWYファミリーの一員となることを心から願っています。

## 南アフリカ共和国

リン・アダムス

「ウブントゥ」ーこれは私たちの言葉で「みんながいてこそこの私」を意味しており、南アフリカの社会では広く認識されているテーマです。南アフリカ人として、平成29年度「世界青年の船」事業のスローガンの一部にこのテーマが用いられていることを私たち南アフリカ代表青年団全員が誇らしく感じています。

### 代表メンバーの選考

参加青年の選考は、南アフリカ青年育成庁の協力の下で日本国大使館が行いました。同大使館によると応募総数は200人を超える非常に狭き門であったとのこと。しかしながら、最高のメンバーが選ばれたと思いますし、参加した様々な活動や各国参加青年たちとの交流の中で、南アフリカ代表として非常に良い行動ができたと思っています。

### 地方プログラム

南アフリカ代表青年団は、オーストラリア代表青年団と一緒に山形県でホームステイをさせていただきました。山形への到着から最後の日まで、地元の方々が本当に温かくもてなしてくださいました。ホストファミリーの方々から、山形県について学ばせていただきました。水族館に行ったメンバーもいれば、地元の温泉に行った者、美しい舞妓（芸者見習い）の踊りを見た人やスキーに行った人もいます。

ホームステイのおかげで、私たちは日本文化と日本の暮らしを全身で感じることができました。そしてまた、我々の違いを超えて共通するものが多いことにも気付かされました。私たちは皆人間であり、人々とつながり、家族や友人の輪を広げていくのです。

文化交流を通して、異なる文化への理解をお互いに深めることができました。このようなつながりは、私たちの世界観にも影響を与えます。そして、こうやって出会う国々との間で将来起こる様々な出来事に、私たちがどのように対応するかにも影響を与えることでしょう。

### 出航前研修

この研修部分はとても中身が濃く、船内生活に向けての準備を全てカバーしていました。同時に、それぞれのレター・グループのメンバーともここでついに顔を合わせ、つながり始めました。

時として息もつかないほど忙しいスケジュールでしたが、この期間に扱われる必要のあった内容を考えると仕方なかったのかもしれません。

### 船上研修と様々な活動

#### NPと文化活動

これらの企画は、いつでもとても興味深くかつ学びの多いものでした。各国の発表は本当によく準備され力がこもっていました。それぞれの発表から参加青年たちは多くを学び、お互いの国の文化について知る良いきっかけになりました。

#### コース・ディスカッションとセミナー

コース・ディスカッションでは幅広いテーマが扱われ、各自の興味に合わせて参加しました。テーマは、子どもの人権、ダイバーシティ推進とインクルーシブ社会の実現、防災活動のための人材育成、自他をエンパワーする対話、国際貢献活動、生活習慣病、持続可能な経済発展を実現するソーシャル・イノベーションでした。

プロジェクト・マネジメントとリーダーシップのセミナーは、その後のコース・ディスカッションにしっかりと取り組むための非常に大切な基盤を提供してくれました。これらのセミナーはまた、各自が国に帰ってからそれぞれでプロジェクトを立ち上げ、それらのプロジェクトでリーダーシップやオーナーシップを取っていくための基礎も与えてくれました。

南アフリカ参加青年は、コースから多くを学びました。各コースのファシリテーターが、各回を興味深く、学びが多く、そして参加型のものにするために大変努力されたということも、それぞれの参加青年が感じたことでした。各コースのほかの参加青年も皆経験が豊富で、お互いに学び合うことのできる場でした。

#### PYセミナーとスキルセミナー

南アフリカ参加青年は、以下のセミナーと自主活動を行いました。

- i. 起業を通じたアフリカの発展
- ii. 成功するプロジェクトのための無駄排除（リーン）メソッド
- iii. 持続可能な開発目標達成のための仮想通貨の利用
- iv. ファシリテーション・スキル
- v. マイノリティのための作家プラットフォーム作り
- vi. ビデオ拡散（世界平和）
- vii. 人権（LGBT）

### 訪問国活動

インドとスリランカでは、それぞれとても興味深い、そして異なる経験をすることができました。課題別視察や地元学生との交流を通して、参加青年たちは両国の若者たちの暮らしについてこれまで以上に理解を深めました。一番大きな気付きとなったのは、どの国でもみな同じ課題に直面しており、その度合いが違うだけなのだということです。

### 提言

- **自主活動**：自主活動は、全て事前に企画を調整し、船上活動の中での時間を割り付けておくのが良いと考えます。そうすることで、1日にあまりにも多くの活動が同時開催されているという状況無くすることができるでしょう。
- **PYセミナーとスキルセミナー**：各セミナーはとても興味深く、またよく準備されたものでした。ただ、参加青年が取りたいセミナーが同じ時間に重なっていることがありました。セミナーは、セミナーという枠の中で、日付や時間を変えて実施すればいいのではないかと思います。
- **ダイバーシティとインクルージョンのセミナー**：参加青年は文化や国の違う様々な背景を持っているので、「ダイバーシティとインクルージョン」に関しては全員の参加するセミナーとして行うことが良いのではないかと思います。そうすることで、各国で起きている様々な誤解の背景にあり、私たち皆にとって深刻な影

## スペイン王国

レベッカ・デ・スアニ

平成29年度「世界青年の船」事業への参加は、私の人生最高の出来事の一つです。私は普段の仕事で若者のかかわる国際的なプロジェクトを扱っているので、今回の事業についてもその様子がある程度想像することができました。しかし、ヨーロッパという枠組を出たことは、私にとっての未知の世界への入り口であり、この学びの旅の始まりでした。

### 代表青年団

スペイン代表青年団は一度マドリッドで集まったのですが、やり取りの中心はインターネットを通してのものでした。この代表団のために、そしてそのメンバーたちと共に働くことはとても大変でもあり同時に自分を大きく成長させるものでもありました。12人のメンバーが（そこには私も含まれるのですが）、それぞれ各自のコンフォートゾーン（心理的な安全地帯）から出てくることで、様々な難しい状況も生まれましたが、私たちはそれらをチームとして解決していきました。そのために

響を与えるこのテーマについて、参加青年全員で考え意見を出し合うことができるでしょう。

- **訪問国活動**：参加青年が皆感じているのではないかと思うのですが、寄港地を更に知るための自由な時間がほとんどありません。船内ではセミナーやコース・ディスカッションに参加し、非常に詰まったスケジュールの中でそのほかの様々な活動も行っていますので、訪問地を自由に見て回る時間は参加青年の大きな喜びにもつながることと思います。

### 終わりに

「世界青年の船」事業は本当にかけがえのない事業です。初めは見知らぬ者同士として出会う参加青年たちが、事業の中で友達関係さえ超え、別れる時にはほかにはないグローバルな家族として目に見えない糸でつながった関係になるのです。

日本と各寄港地を訪れる機会、それらの場所でのホームステイやコース・ディスカッション、セミナー、課題別視察などを通して様々な背景を持つ人たちと交流する機会を与えてくださいましたことに対して、日本国政府内閣府に心より感謝いたします。

おかげ様で私たちは真の意味でこのスローガンに掲げたとおりの時を過ごすことができました。  
“Together we SHINE! I am because we are.”

お互いを助け合い、それぞれの個性や置かれた状況の違いを理解しようと努めました。船内のドルフィンホールで行った最初のNPリハーサルのは決して忘れたいと思います。あれは最悪でした。私たちは悲しく、イライラし、疲れ切っていました。しかし、そこから私たちは力を込めて練習し、翌日の本番ではチームとしての最高に幸せな時の一つを体験することができました。メンバーそれぞれが参加青年として成長するのを観察しそれを手助けしていくことは、私自身を大いに力付けることでもありました。

### レター・グループ

準備ミーティングで顔を合わせた時に、レター・グループでのリードの仕方に関するワークショップを行いました。最初は、何をしなければいけないのかをなかなか理解できませんでした。実際に私が入ったレター・グループでは全てがスムーズで問題なく進んだので、私はラッキーだったと思います。最初のセッションでは、ノン

## スリランカ民主社会主義共和国

チャマル・ランドウヌ・アマラウィーラ

を込めて準備に取り組みました。

## 山口県における地方プログラム

地方プログラムは、「世界青年の船」事業での体験の中でもっとも興味深いものの一つになりました。私たちスリランカ青年は、日本文化を体験する本当に素晴らしい機会を与えていただきました。三日間、日本の御家族と一緒に過ごさせていただき、日本にもう一つの家族ができたのです。山口県 IYEO のメンバーの方々、そして全ての関係機関の方々が、ホームステイプログラムをできるだけ良いものにしようと熱心に取り組んでくださいました。山口県の方々、スリランカとスペインの2か国の青年を心から温かく迎えてくださいました。山口県の皆さんは本当に御親切で、いろいろなことで手助けしてくれました。私たちにまるで家族の一員のように接してくださったのです。お別れの時は、本当に心が揺さぶられ感情がこみ上げてきました。ホストファミリーの皆さんとお別れするのはとても辛かったです。この素晴らしい地方プログラムの実現に向けて御尽力くださった全ての方々に、重ねてお礼申し上げます。

## 陸上研修

次のステージは、1月22日に始まりました。この日は、平成29年度「世界青年の船」事業の素晴らしい思い出に更に美しい思い出を付け加えるものになりました。全外国参加青年が日本参加青年と出会い、これで家族が全員そろったのです。それぞれが自分のレター・グループのメンバーとも知り合い、七つの重要なテーマに分かれて行われるディスカッションも始まりました。その七つのテーマは学術的にも重要で、そして若者たちが今直面している重要なテーマを扱うものでした。ナショナル・プレゼンテーション (NP) パート1では、各国の青年たちがそれぞれの国の基礎情報を紹介しました。プロジェクトマネジメント・セミナーとリーダーシップ・セミナーは、陸上研修の意義を更に高めるものでした。スポーツ・デーも、都内視察も、そして課題別視察も、どれもが素晴らしいものでした。そして陸上研修中には、多くの参加青年が人生初の雪を経験しました。

## 船上研修— っぽん丸での生活

1月28日は、この事業の中で忘れられない日となりました。みんなが待ちに待った日です。事業終了までの残り33日を過ごす家となるにっぽん丸に、全参加青年が乗船したのです。船上研修中、参加青年たちは皆、それぞれの経験や想いをアイディアなどを兄弟姉妹であるほかの参加青年と共有しました。スキルセミナーで

フォーマル教育的なゲームとアクティビティをしてみました。これは、グループが一つになり、つながり合いお互いを支え合う仲間になることに役立ちました。レター・グループの活動で一番印象に残っているのは、プールでのミーティングです。

## NL

異文化交流における学びという点で、NLという立場には2倍の挑戦があったと思います。一方で日常生活をしつつ、もう一方でNLとして協力して活動し意思決定もしていくということです。そしてその意思決定は、自分の国の代表団だけでなくほかの参加者たちにも影響を与えることとなります。それぞれ考え方や文化の違い11か国が共に活動するのは、時としてかなり難しいものでした。準備ミーティングの段階でNLチームとしてのチームビルディングをもう少しうまく行っていれば状況は違っていたと思います。とはいえ、様々な状況への私たちの対応にはとても満足していますし、私たちの間の友情や尊敬の念が、常に問題を乗り越える強いものであったことも嬉しく思います。NL仲間のおかげで、私自身の問題解決能力も大きく向上したと感じています。

## にっぽん丸での生活

どんなにたくさんの説明をもってしても、どんなにたくさんの写真を使っても、にっぽん丸の数週間の生活は言葉では表しきれないと思います。横浜港に着いた日、私は何が起きているのかを理解しようと目を見開き、口も大きく開けたまま船内を歩き廻っていました。一番懐かしく思うのは、もちろん海です。寝る前にキャビンの窓から海を眺め、そして朝起きてまた窓から海を見て、それが毎日のお決まりになりました。デッキは出会いの場所になり、そこでの会話は時におかしく、時に深く、悲しく、教訓的なものでもありました。船内で一番学びの多かったのはここだと思います。

スペインで出発の準備をしていた時には、船内で自分だけの時間をどう過ごし、自分のスペースをどう確保しようかと考え、また暇つぶしのために、テレビシリーズや映画をたくさんダウンロードし、本もたくさん持ち込みました。しかし、私はすぐにこの閉鎖空間に慣れ、振り返ればそれらがどれだけ無駄だったかを知り、本当におかしく思えます。詰め込んだ物が役に立ったのは、インフルエンザでの船室待機の時だけだったと思います。水平線を眺めることが楽しい習慣になり、夜には星を眺め、寄港地が近づくと朝は早く起きてイルカを探しました。そういう生活にあまりにも慣れたので、近くにほかの船がいる時や、港でキャビンの窓が陸側に面している時は、なんだか変な感じでした。自分だけの時間もありました。特に大浴場で。そこでは、自分の頭の中を占め過ぎていろいろなことを忘れるようにしました。で

も一方で私は、みんなとおしゃべりすることにもすっかりはまってしまいました。話せば話すほどもっと理解したいことがあり、もっとつながりたい人がいて、もっと聞いてあげたいみんなの感情もあったのです。

## この経験を作り上げた人たち

もちろん、これら全てのことの陰には毎日（そして毎晩だと思いますが）、私たちのために働いてくださった大勢の方たちがいたのです。それら全ての方々の大きな支えと、この事業を進めていくことへの意志がなければ、これらのことはどれも成し遂げられなかったことでしょう。

この場にいられるのは私にとって本当に栄誉なことです。私を選んでくださったことに対して、日本国大使館及びスペイン青年協議会、そしてSWYAA スペインに心から感謝いたします。もうお気付きになられたと思いますが、私にとってスペイン代表青年団とレター・グループ、そしてNL仲間は本当に大切な存在です。この場をお借りして、何人かの方たちに特別なお礼をさせていただきたいと思います。大切な人があまりにも多いので、このスペースに皆さんの名前を挙げることはできないのですが。ベドロ、パブロ、ディエゴ、ノエミ、エレナ、毎日の音楽で楽しませてくれてありがとう。外国参加青年へのカウンセリングをしてくれたトム、外国参加青年たちが船上の暮しを楽しめるようにしてくれて、そしていろいろな状況について私が理解するのを助けてくれてありがとう。セクシャリティについてオープンに語ってくれたジョルディ、おかげで大変多くの方が勇気付けられました。ありがとう。情熱とエネルギーを注いでくれた夏希、あなたは最高の日本文化大使でした。ありがとう。民族的なアイデンティティについて語ってくれた静華、おかげでほかの人たちもそれぞれの民族的なミックスについて語り振り返る機会を持てました。ありがとう。いつもその笑顔で皆を輝かせてくれた良子、ありがとう。スペイン・ランカ代表青年団もありがとう。最後になるのは、時にはおもしろいことかもしれないね。

いつも笑顔を絶やさなかった人たちにも感謝します。最初はシャイな接し方だったけれど、いつも人々への敬意を忘れずに探求心を持って全てから学ぼうとしていた日本参加青年の皆さん。本当の意味で自分のコンフォートゾーンから出て経験からの学びの世界に飛び込んだ皆さん。委員会の皆さんと自主活動発表者の皆さんは、ポジティブなエネルギーとインスピレーションに満ちていて本当にすばらしかったです。そして最後に、でもとても大切な人たちとして、自分の固定観念を疑い対峙した人たち、変化を受け入れた人たち、そして自分の立ち位置を心に強く決めて力を尽くした人たち。間違いなく、皆さんが明日の世界を担うリーダーです。

は、それぞれの持つ能力をほかの参加青年たちと共有する機会もありました。またPYセミナーではそれぞれの知識を共有しました。自主活動は各自の特技などをほかの参加青年と共有する良い機会となりました。船上生活で最も盛り上がったのは、NPパート2でした。その場では各国の青年たちが、文化的なパフォーマンスを行いました。これは船上研修中で最高の時間でした。

#### 訪問国活動

訪問国活動は、この事業に更なる彩を与えてくれました。訪問国はスリランカとインドでした。訪問国活動をすばらしいものにし、私たちを温かく迎えてくださった両国に心から感謝の意を表します。寄港中には、全ての参加青年がスリランカとインドの文化を体験する機会を得ました。両国で参加青年たちが地元の若者や学生たち

と交流したのは、とても興味深い場となりました。お披露目したNPのミニ版は、地元の若者たちが様々な国の文化に触れる良い機会となりました。スリランカとインド両国のSWYAA、そして関係するすべての方々の御尽力に感謝いたします。

#### 終わりに

レポートを終えるに当たって、参加青年一人一人にとってのこの体験をこんなにもすばらしくそして安全に遂行してくださった、全ての管理部メンバーとファシリテーターの方々、そして全てのクルーの皆様にお礼申し上げます。平成29年「世界青年の船」事業は期待されたその目的を果たしたと信じています。

Together we SHINE – I am, because we are –

## 船長からのメッセージ

今航海を振り返るに当たり、まずは船上で運営指揮と参加青年たちの指導に当たられました駒形管理官、大部副管理官、村田主任を始めとする管理部の皆様、アドバイザー、各国ナショナル・リーダー、また内閣府関係者の皆様、日本青年国際交流機構、一般財団法人青少年国際交流推進センター並びに各寄港国の受入関係者の皆様に、平成29年度「世界青年の船」事業を無事に、また成功裏に終えられましたことを心よりお慶び申し上げますとともに、本船運航と船内運営に多大なる御助力を頂きましたことに厚く御礼申し上げます。

また、参加青年の皆様におかれましては様々な研修、プログラムを終えられ、ほっとすると同時に34日間親しんだにっぽん丸での生活が終わりを迎えることを惜しんでいただいているのではないのでしょうか？

本船を預かる身としては、何よりも皆様を大きなけがや事故なく東京にお連れすることができたことに安堵しております。当初ももっとも懸念しておりましたのは例年見られる船内でのインフルエンザの流行でしたが、横浜出港時から罹患者がおり、その後航海中にも数名の罹患者が発生したにもかかわらず、往航のシンガポール入港前日に船内での流行を封じ込めることができたことは誠に幸いでした。これもひとえに、管理官以下管理部の皆様の的確な御判断と措置、また参加青年の皆様の理解と統制の取れた対応の賜物と感じるとともに、皆様の御心労はいかばかりであったかとお察しいたします。

さて、本航海を振り返りますと、1月29日に横浜港を出港し、東京湾を出た後、冬型の気圧配置が緩む中比較的穏やかなスタートとなりましたが、それでも初めて船に乗った方々の中には船酔いの洗礼を受けた方も多かったのではないのでしょうか。翌30日に行った船長講話の中で先々予想される気象状況について紹介した中で「現在の船の揺れ具合は比較的穏やかです」とお話したことに対し、「先が思いやられる」とゲンナリした方が大勢おられたと後に伺いました。ただ、その後南シナ海を北東の季節風を後方から受け、ゆったりと横揺れしながら南下するなかで、当初船酔いで苦しまれた方々もほとんどはすぐに慣れ、元気になられたのを拝見して安堵したことを覚えています。2月6日には主に燃料と清水の補給のためシンガポールに入港しました。参加青年の皆様は今や超近代的な大都市となったシンガポールでの自由時間を楽しまれたことと思いますが、実はこの時

にっぽん丸 船長 久保 滋弘

船では船舶検査官が臨船し、救命設備や防火設備、また乗組員の安全訓練習熟度などに対する検査が実施されたことを御存知でしたか？もちろん無事検査に合格したことは言うまでもありません。その後穏やかなマラッカ海峡、インド洋北部を航行し、イルカなどの海洋生物との出会いや、美しい朝日や水平線に沈む夕日、そしてあわよくばグリーンフラッシュなどの自然との出会いを体験していただくことを期待し、常に洋上に目を配っていたのですが、今航海においてはこれらに出会う機会が比較的少なかったことが心残りです。最も美しい夕日を見ることができたのはコチ停泊中だったかもしれませんが。2月7日には参加各国ナショナル・プレゼンテーションに御招待いただき、全参加国の、それぞれに特徴のある紹介を楽しませていただきました。2月11日から13日、15日から17日にはそれぞれ目的港であるコチ、コロomboに寄港しましたがいずれの寄港地でも印象的であったのは、大勢の、また様々な年代の既参加青年が受け入れに奔走されていたことで、改めてこの事業の歴史の深さを感じさせられました。そして帰りの航海は2月26日から27日にかけてのバシー海峡通過時、また日本に近づいた28日午後以降は大荒れの天気となり、いかに揺れない航路を採るかに腐心しました。特に2月28日から3月2日にかけて日本付近を襲い、各地に被害をもたらした春の嵐に対してはかなり強く懸念しておりましたが、風向、波の方向に恵まれ、心配したほどの動揺もなく安全に航行できたことは幸いでした。

今航海を通じ、各国の参加青年の皆様がにっぽん丸という「一つ屋根の下」での生活、研修プログラム、また訪問国活動等を通じ、国籍、人種、文化、宗教等の多様性を互いに受入れ、尊重しながら絆を深めあう姿を拝見するにつけ、とかく保護主義や内向きな考え方が世界的に台頭しつつある昨今において、本事業の意義と重要性が益々高まっていると感じさせられました。多くの既参加青年の方々グローバルな環境の中で活躍され、この先も同様の人材輩出に資するこのすばらしい事業のお役に少しでも立てたのであれば、我々ににっぽん丸乗組員一同心より光栄に存じます。また今回参加された参加青年の皆様様の様々な分野での御活躍と、「世界青年の船」事業が末永く継続されることを衷心よりお祈りいたします。